ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第 22 号　2022 年 3 月発行

このプロジェクトは５年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の４つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. OA マーケット改善のための協議

2022 年 3 月 3 日、プロジェクトが昨年 9 月に ITECC (International Trade Exhibition and Convention Centre) 有機農業（OA）マーケットにて実施した調査結果[1)]を踏まえ、首都ビエンチャン農林局、サイセタ郡農林事務所及び OA 農家委員会からなる 22 名の関係者による ITECC OA マーケット改善のための協議を実施しました。協議では、アンケート調査を通じ、最も多く要望された［駐車場スペースの配置・管理の改善］について、来場者の車両・バイクをはじめ農家の生産物運搬に使用するトラック車両も含め話し合いました。この結果、OA 農家委員会が ITECC オーナーと協議し、具体的な改善に取り組むことが決まりました。この他では、野菜・果物の新品種の生産・販売、試行的な飲食ブースの設置、魅力的な OA マーケットの PR 活動について話し合いました。また、今回の会議を通じて、これまで保守的であった OA 農家委員会にも、主体的な変化がみられました。

（写真）首都ビエンチャン農林局にて

1) クリーン農業開発プロジェクト・ニュースレター第 19 号 2021 年 10 月発行を参照

2. 生産農家へのお宅訪問による現状及び課題の把握

今回、首都ビエンチャンにおける農家世帯の家計状況や、農作業における男女の役割分担などについて伺ってみました。ご協力頂いた農家さんは、ノンテー村の専業農家である Mr. Khane と Ms. Buavanh 夫妻。そしてタサン村の兼業農家である Mr. Outhai と Ms. Fong 夫妻です。二組とも ITECC の OA Market（水曜日・土曜日開催）を主な販売先としています。そんな二組の共通点や共通課題をここでは取り上げてみたいと思います。

（写真）Mr. Khane と Ms. Buavanh 夫妻

（写真）Mr. Outhai と Ms. Fong 夫妻

まず OA Market での販売は奥さんが担当し、その日得た収入や支出、貯金に回す金額については全て奥さんが管理しているとのことです。また、お客が好む農産物についての聞き取りや、周りの農家が持ち込む品目についての観察なども行っているようで、次の作付け品目の選定と種子の購入も奥さんが担っているとのことです。播種や定植、収穫などの作業についは基本的に夫婦で担っているとのことでした。

その一方で、農業から得た収入や支出の管理について簿記記帳は行っておらず、その日販売した正確な数量も把握していないとのことでした。また、自身が耕作する農地面積(㎡又は ha)も正しく把握していないことから、単収も把握できていないとのことでした。

このように農業経営において女性は舵取り的役割を担っている旨を知ることが出来ましたが、同時に簿記記帳や農地面積の把握といった経営基盤における課題についても知ることが出来ました。今後はこれら課題についても OA Technical Manual を通じて改善を図っていきたいと思います。

3. 合同 PMU 会議の実施

2022 年 2 月 24 日（木）にルアンパバーン県で合同プロジェクト・マネージメントユニット（PMU）会議を、対象 4 県による合同 PMU 会議として開催しました。合同 PMU としての開催は前回 2021 年 1 月のサイヤブリ県（ニューズレター第 11 号参照）に続いて今回で 2 回目です。対象県の農林局（PAFO）・郡農林事務所（DAFO）職員、クリーン農業基準センター（CASC）職員、及びプロジェクト・スタッフを含めた合計 25 名の参加がありました。

昨年の合同 PMU 実施後の各県の活動進捗がそれぞれの県の PAFO 職員により報告されました。COVID-19 の影響を大きく受ける中、それぞれの県で最大限の努力をして活動を実施していることが参加者に共有されました。また、2022 年 11 月のプロジェクト終了までの大まかな計画（終了時評価や最終セミナー等）が関係者間で共有されました。

（写真）参加者によるグループ写真

OA 現場からの声

このコーナーでは、対象県で有機農業推進に尽力しているキーパーソンに焦点を当て、発信しています。今号は首都ビエンチャン・ハートサイフォン郡サイフォン・ヌア村のパスート・ティッパネート氏を取り上げます。

（写真）自身の圃場でのパスート・ティッパネート氏

パスート氏はハートサイフォーン郡にある中学校の教頭先生でもあります。しかしながら収入の約 70%は有機農産物の販売によるものです。パスート氏の圃場を訪問するとまず目に入るのが、ホワイトボートに細かく記載された生産資材の購入履歴及び作物の栽培記録です。パスート氏はもともと農薬や化学肥料を使用した農業を実践していましたが、2011 年に有機農業を始めました。農薬や化学肥料を使用した野菜は価格も不安定で、自身及び消費者の健康に対する影響が心配でした。

約 0.6ha の圃場にキュウリ、ブロッコリー、キャベツ等の野菜に加えて、マンゴー、バナナ、パパイヤ等の果樹も生産しています。雨期と乾季ではそれぞれに特徴があると言います。乾季は生産も多くなり、質のいいものが出来るが、価格は安くなります。一方、雨期は栽培が難しくなるが、高く販売することが出来ます。量と価格を考慮すると、売上額はそれほど変化しないと言います。

サイフォン・ヌア村ではメンバー間で毎月会議を行い、特定の作物が多くなりすぎないように生産調整を行っています。また、他村のグループの生産状況を視察に行くこともあります。今後は「圃場を拡大する予定はないが、季節に応じた作物を選び、病害虫を発生させないように栽培時期にも気を付けていきたい」とのことです。

発行元：JICA クリーン農業開発プロジェクト
Clean Agriculture Development Project (CADP)
Email; cadp.lao.info2@gmail.com
Tel：+856-21 417 681
https://www.facebook.com/jicaCADP/
Homepage https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html